

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【南浦和中】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	スタディ・サプリやドリルパークなどの学習コンテンツの活用や、チーム・ティーチングによる学習指導、スクールアシスタントによる学習支援を充実させたことで、全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。次年度の改善策としては、スクールダッシュ・ボードの「授業アンケート」機能を活用し、個別最適な学習環境を整備していく。
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査の各教科設問別集計結果では、主に国語と数学で「思考・判断・表現」に関する設問の無回答率が高かった。次年度も引き続き読解力の向上を目指し、「書き、まとめ、伝え合い、発表できる」生徒を育てていく。そのために、校内研修や研究授業等を通して、ICTを効果的に活用した授業方法について研究していく。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をどの学年も90%以上を維持する。来年度は、学校評価アンケート(生徒・保護者)でも課題となった家庭学習に関する項目「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」を57%から70%に向上できるよう、学校で学んだことを家庭学習にもつなげる手立てを講じていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、全教科の「知識・技能」において平均を上回る。また、R5さいたま市学習状況調査の自校結果より、全教科の「知識・技能」において市平均を上回る。	⇒ 基礎学力向上のため、チーム・ティーチングによる学習指導や、スクールアシスタントによる学習支援を充実させる。また、補習においてスタディサプリを活用し、基礎・基本的な学力の向上を図る。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、全教科の「思考・判断・表現」において平均を上回る。また、R5さいたま市学習状況調査の自校結果より、全教科の「思考・判断・表現」において市平均を上回る。	⇒ 学習における言語活動を充実させるため、ICTを効果的に活用する。特に、総合的な学習の時間を核として、タブレットを活用した調べ学習や、レポート作成・発表を行う。また、読解力の向上を目指し、「書き、まとめ、伝え合い、発表できる」生徒を育てるため、読解力の向上をテーマとした公開授業を設定し、授業実践を行う。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 全ての授業において、生徒とともに必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。また、授業中に必ず自己の振り返りができる時間を設定する。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」の平均正答率は、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果と比較して、国語-1.5pt、社会-0.6pt、数学+1.8pt、理科-1ptであった。スタディ・サプリやドリルパーク等の学習コンテンツを活用したことで、数学では学力の向上が見られたが、他の教科では数値の低下が見られた。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」の平均正答率は、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果と比較して、国語-1.6pt、社会-2.6pt、数学+0.9pt、理科+1.3ptであった。Teamsを活用した、教師と生徒又は生徒同士の思考の共有化を図ることについては継続することができた。しかし、国語、社会で数値の低下がみられた。	B
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、R5年度全国学力・学習状況調査では肯定的な回答の割合は87%であったが、R5年度さいたま市学習状況調査では89%であった。1学期時点と比べて数値の上昇が見られ、目標を達成することができた。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+2pt、数学-5.5ptであった。数学の、証明の内容を振り返って読み取る力に課題が見られた。英語の平均正答率は58.9%で全国と埼玉県の正答率を上回った。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+13.9pt、数学+4.2ptであった。数学の、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力に課題が見られた。英語の平均正答率は45.2%で全国と埼玉県の正答率を上回った。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は87.1%で目標値に達しなかった。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ① 結果分析(管理職・学年主任等)
- ② 詳細分析(学年・教科担当)
- ③ 分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	「知識・技能」において、R4年度さいたま市学習状況調査より国語-1.9pt、社会+0.1pt、数学+0.8pt、理科-0.7ptであった。数学では、「数の集合と四則計算の可能性について理解している」設問で、市の平均正答率を2.2pt上回った。ただし、「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」設問の正答率が市の平均正答率を7.5pt下回った。知識の概念的な理解を大切にして、生徒が知識・技能を獲得していけるよう授業改善に努めていく。
中2	「思考・判断・表現」において、R4年度さいたま市学習状況調査より国語-0.3pt、社会-1.7pt、数学+1.8pt、理科+1.7ptであった。理科では、「この実験の際のエタノールのはたらきを答えることができる」という設問で、市の平均正答率を7pt上回り、平均正答率も93.5%だった。ただし、「鏡に映る像の原理を考え、像ができないものを求めることができる」設問では、正答率が市の数値を1.2pt下回った。また、正答率が28%と低かった。今後も、協働して学習する活動をととして、自ら解決策を見出す力を育てていきたい。
中3	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は89%であった。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は83%であった。どちらも二年生の時よりも高い結果であり、主体的に学習に取り組む様子が見られるようになった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒
思考・判断・表現	変更なし	⇒
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒